

ウ 郷土の伝統・文化と先人たち

プラン G

1 ねらい

- (1) 当時の世の中の課題や人々の願いに着目し、資料で調べ、年表などにまとめる。
- (2) 地域の発展に尽くした先人の具体的な事例を捉え、先人の働きを考え、表現し、先人は様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解できるようにする。

2 副読本「わたしたちのまち さやま」の単元

地いきの発てんにつくす 清水宗徳 4年生 P79～83

3 学習内容

- (1) 地域の発展に尽くした清水宗徳の業績について知り、郷土狭山の発展や私たちの生活に影響したことについて知る。
- (2) 狭山の交通がどのように発展し、地域の人々のためになったのかを知る。
- (3) 絹織物の様子と斜子織の特徴について知る。
- (4) 養蚕の特徴と当時の産業について知る。

4 博物館での学習

- (1) 清水宗徳の生い立ちと業績についての講義(学芸員の解説と動画資料の活用)
- (2) 常設展示での見学(学芸員による解説と実際の展示物を見ての学習活動)

- ① 馬車鉄道の展示を見て、今の鉄道とどこが違うのか。当時の狭山の発展にどのような影響をもたらしたのかを学習する。

江戸時代から明治時代にかけて発展した養蚕と織物(斜子織)の特徴について展示を見て確かめる。

養蚕の様子の模型を見て、どのようにして織物になるのかを知る。

5 博物館の資料【常設展示】

養蚕の仕事 47 狭山の斜子織 49 狭山の馬車鉄道 60

6 小単元の観点別評価規準

知識・技能	・ 当時の世の中の課題や人々の願いなどについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を理解している。 ・ 調べたことを年表や文などにまとめ、地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解している。
思考・判断・表現	・ 当時の世の中の課題や人々の願いに着目して、問いを見いだし、地域の発展に尽くした先人の具体的事例について考え表現している。 ・ 先人の働きと地域の発展や人々の生活の向上を関連付けて考え、適切に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	・ 県内の先人の働きについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

7 指導資料 地域の発展に尽くした人 清水宗徳

・天保 14 年(1844)12 月 11 日武州高麗郡上広瀬村、現在の狭山市上広瀬 広瀬神社の神宮を務める清水家(名主)の長男として生まれる。

当時は、幕末期、明治維新(1868)の 24 年前であった。

・父の跡を継いで 20 歳で名主となり、明治になってからは上広瀬村の戸長兼民事取締役を務める。

※名主とは、村民の税金を納める村長的相談



① 教育事業

明治 5 年(1872)に学制が發布される以前、狭山市内で最初の小学校「広瀬郷学校」を設立。また広瀬神社の境内に「幼育学校」を設立する。その後、学制の發布によって正式に学校制度が出来た後も、私財を投じて協力を惜しなかった。

② 入間川の渡船

明治 8 年(1875)に、現在の本富士見橋付近に上広瀬と入間川を結ぶ渡船を開設し、入間川兩岸の交通の便箋を図った。この渡船は、本富士見橋が架けられた大正 9 年(1920)まで続いた。



『狭山市史 近代資料編』p182



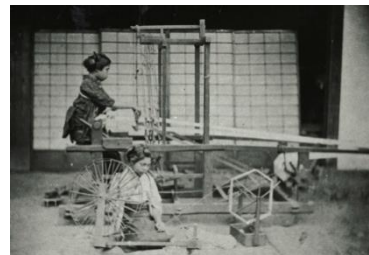
『狭山市史 近代資料編』 p373

③ 養蚕研究

養蚕は農家の副業として盛んだった。明治 3 年(1870)には村内の荒地を使い、桑畑を作った。また県外の養蚕地や製糸場を見学し、明治 8 年(1875)に自ら養蚕室を建設し養蚕の研究を行った。また蚕糸業組合を結成して、見習生を募集して養蚕を本格的に地元になづかせた。

④ 暢業社 ちょうぎょうしゃ

明治10年(1877)埼玉県内で初の器械製糸工場「暢業社」を設立する。場所は、広瀬橋のたもとで、現ヤオコーの近くの本富士見橋側である。製糸器を30台、蒸気窯を設置し、動力には水車を用いた。また富岡製糸場に工女を留学させた。工場は県令や政府から絶賛され、生糸も国内屈指の優等品として高く評価され、フランスやイタリアなどに輸出された。創業からわずか半年で314円の利益を出す。翌年の台風で入間川が氾濫し、大打撃を受けた。



『狭山市史 近代資料編』p321

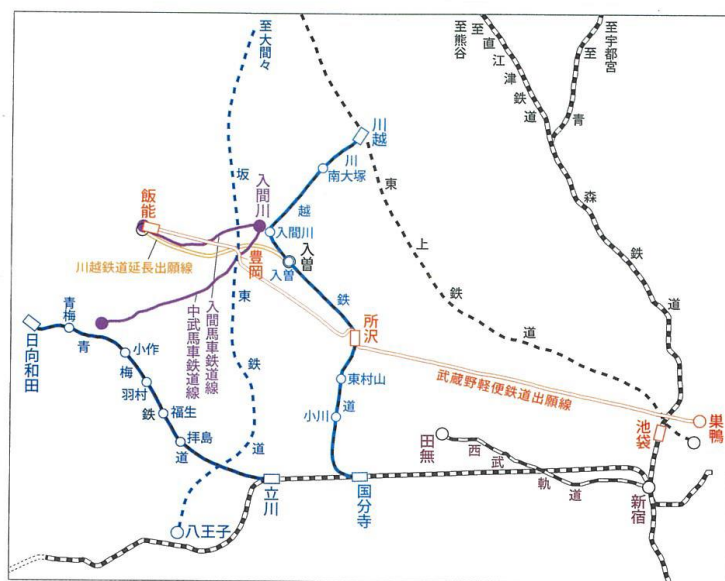
⑤ 広瀬斜子織 ひろせななこおり

斜子織は広瀬地区で生産されていたが「川越斜子」として売られていた。品質の向上を目的に同業組合「広瀬組」を設立。品質検査に合格した反物に「広瀬魚子の商標」を与えた。

明治26年(1893)シカゴで開かれたコロンビア世界博覧会で名誉賞状を獲得し、世界に認められたことにより最高級品の地位を確立し、宮内庁御用品となった。しかし明治後期に羽二重が登場し工場生産で同品が大量生産されると下火になっていった。

⑥ 川越鉄道

前述のように明治時代の狭山は生糸・織物・製茶などの豊富な産業があった。川越は物流の中心だったが、川越で輸送する手段は馬車や荷車だった。宗徳は川越駅と国分寺駅を結び甲武鉄道に接続する鉄道を企画し、地元の有力者を説得して株主にした。また国から「川越鉄道布設免許願」を取得し、川越鉄道株式会社を設立。計画から5年後に全線開通し、入間川駅、入曽駅、所沢駅、小川駅の各駅も同時に開業。開通後、入間川町は急速に発展していった。



武蔵野軽便鉄道出願時の周辺の鉄道『武蔵野鉄道開通 図録』P17 2015年 飯能市郷土館



狭山市史 通史編Ⅱ P241

業績⑦ 馬車鉄道

川越鉄道の恩恵を西に広げるため、**人間馬車鉄道**敷設の免許を取得。電気鉄道構想から、水力発電所の建設を企画するが、名栗村を中心として材木商や筏（いかだ）関係者が大反対をして、専用道路の**馬車新道**を開削しただけで中止となる。その後入間銀行頭取であった柏原村の増田忠順に免許を譲渡。明治35年(1902) 増田らにより入間川駅と飯能駅を結ぶ馬車鉄道が開通するが、大幅な赤字経営となってしまう。増田忠順が銀行の金を建設資金に流用していたことが発覚。経営陣は総辞職となる。宗徳は乞われて二代目社長に就任し、経営再建に乗り出す。自らの給料を返納するなどして負債を返済し、明治40年(1907)、会社は赤字から脱却する。大正4年(1916)に飯能と池袋を結ぶ**武蔵野鉄道**が開業したことをきっかけに、翌大正5年に廃業する。

業績⑧ 政治活動・砂利の掘削・北海道開拓

第1回埼玉県議会選挙で当選、10年間県議会議員を務める。明治23年(1890)第1回衆議院選挙に立憲自由党から出馬し当選、衆議院議員となる。同年に地租の徴収期限を大幅に緩和する改正案を立案し、これを通す。農民のことを考える政治家であったが、国政を2期で辞職した。所属していた自由党の勢力基盤を拡大し、ライバルの進歩党から大変に恐れられ、「爆裂弾」と呼ばれた。

・東京、横浜の埋め立て地発展を見越して、入間川の砂利掘削事業を開始。入間川砂利合資会社を設立。川越鉄道・甲武鉄道を利用して東京方面に砂利を搬出、砂利の掘削により入間川の洪水被害も減少する一石二鳥の事業であった。

北海道開拓 北海道の原野開拓に次男の一三を参加させ、現在の奈井江町に入植。北海道空知郡奈井江町には「清水ヶ原」という地名も残り、一面の田んぼとした。

当時は国内の貿易業者の発達が不十分で、外国の会社に利益を持って行かれていた。「同伸社」という生糸貿易会社を横浜に創業。流通面でも改善を行おうとした。

★他にも鉄工所や搾乳所など様々な事業を行っていた。

明治42年(1909)8月18日、脳溢血のため死去。67歳であった。墓は生まれ故郷である広瀬浅間神社隣の墓地に作られ、入間馬車鉄道の創設者としての功績を讃えて墓石の下に馬車鉄道の線路が敷かれている。



地いきの発てんにつくした人



考えてみよう。

Q だれのお墓だろう。

Q 代議士とは何だろう。

Q なぜお墓の下に2本のレールがあるのかな。



博物館で見てみよう 1



今の鉄道とどこが
ちがうのか考えて
みよう。

博物館で見てみよう 2

きぬおりもの
絹織物のもようと
お
織り機をつかって
いるようすを見て
みよう。



博物館で見てみよう 3

ようさん
養蚕の様子をみて
みよう。



生い立ちをまとめてみよう。

江戸時代 天保14年12月11日 ()で生まれる。

明治 年 (才) で名主(村長)になる。

明治 3 年 村人に()を教える。

明治 4 年 さやま地域で()を開く。
水富小学校は、さやまで一番歴史がある学校です。

明治 9 年 きかいせい糸工場を作る。

高級な絹織物きぬおりもののひとつで縦糸と横糸の太さが違うことから
折り目がななめにならぶように見える。
(織り)

明治 23 年 こっかいぎいん
国会議員になる。

明治 25 年 かみひろせ
上広瀬の人たちといっしょに()のはってんにつくす。



地いきの発てんにつくした人

清水 宗徳 (しみず そうとく)

人々の暮らしを豊かにするために色々なことをしたんだね。

